



広島女学院同窓会 東京支部ニュース

編集・発行 東京支部役員会

2025. 11. 1
第 86 号

今年度の聖句

これらのことを話したのは、あなたがたがわたしによって平和を得るためである。あなたがたには世で苦難がある。
しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。 ヨハネによる福音書 16 章 33 節

広島女学院尽くし

浅海 和子 (脇/高 19) ヒロシマを語り継ぐ会代表

広島女学院高校を卒業して早くも 60 年近くが経つが、この半年間に、まるで在校生に戻ったように広島女学院尽くしの出来事に遭遇した。

2015 年から、神戸市在住の私たち二名と大津市在住の一名、計三名の関西の同窓生が、同市で平和教育を目指して、公立中学校放送部と大人の朗読団体・兵庫県声の図書赤十字奉仕団に協力を求め、震災文学と原爆文学の朗読に取り組んだ。

思い起こせば、30 年前の阪神・淡路大震災のど真ん中で、何故か原爆投下後の様子が脳裏に浮かび、特に下敷きになった家族を置いて火事の中を逃げる苦しみは投下後と重なった。

震災と原爆を一緒にするのは乱暴な話かもしれないと最初は不安を持ったが、不思議なことに抗議する人は無く、逆に会場の 100 名余りの聴衆の涙を誘うこととなった。そこで、仲本宏子先生が集いに「天災・人災を超えて」とタイトルをつけ、チラシ制作にも協力をしてくださった。

さて、6 歳時の被爆者で広島女学院中学を卒業された神戸市の貞清百合子さんが 2017 年 5 月に同市に寺尾知文さんの『きり絵画文集 原爆ヒロシマ』のパネル展を持ち込まれた。それを見た私達も触発されて同年 7 月にパネル展を行い、翌 18 年、それを朗読劇に仕立てて放送部 OB の高校生達と大人が朗読した。しかしながら、2015 年から毎夏に続けていた学校とのコラボは、2020 年以降はコロナ禍で中止を余儀なくされた。

そこで、広島への修学旅行の事前・事後学習に使ってもらうため、寺尾作品のきり絵と朗読で 30 分強の YouTube 動画を制作した。兵庫県声の図書赤十字奉仕団の名前を最後のエンドロールに出すための許可を日赤兵庫県支部と交渉するため、後輩の M さんが大活躍してくれた。

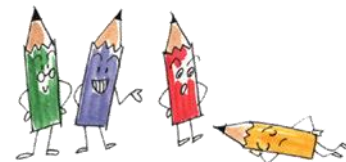
すると、その YouTube 動画がキッカケで、出版社が再販のために著作権者に繋いで欲しいと連絡をして来られた。東京在住の著作権者に直ぐに繋ぎ、私達の代理で元関東ブロック長の坂下恵さんが著作権者に会ってくださった。

さらに 6 月の出版予定間際に、出版社から本の帯に女学院関係者に推薦コメントをいただきたいとの要請があり、思いつくままに大先輩の小倉桂子さんのお名前を挙げたところ、私達から依頼して欲しいと求められた。同窓会本部に連絡をとると、小倉さんが 5 月末の神戸での関西ブロックの同窓会にノーベル平和賞受賞記念の講演に来られることがわかり、当日会場で初版作品をお見せすると大変感動されて、私達の学校参加型イベントの写真ファイルもご覧になり、ご多忙の中、快く引き受けて何とか出版に間に合わせてくださった。今では私達の一人が翻訳した英訳チラシも活用しながら国の内外で宣伝をしてくださっている。

同窓会本部の協力に加え、関東ブロックも支部ニュースやフェイスブックでお知らせをしてくださり、関東ブロック長の白井京子さんは朗読会をくださった。広島女学院中学高等学校も、平和教育の為に本の採用を検討してくださっている。

その上、後輩の若き山下美波さんが新聞記者として取材をし、8 月 27 日に中国新聞の記事にもなった。本当に広島女学院尽くしの出来事だった。





学校図書館相談員ってどんな仕事？

平向 智（原垣／高 45）

◇はじめに：本棚の向こうにある静かな心臓

休み時間の学校図書館。ページをめくる音、子どもたちのささやき声、ほんのり漂う紙のにおい。

ある日、一人の生徒が調べ学習で行き詰まり、司書さんに声をかけます。司書さんは優しく耳を傾け、ぽんと心に種を落とすような一冊を差し出す。その瞬間、子どもの目に小さな光が宿ります——ああ、また一つ、知の芽が生まれた。

こうした瞬間が市内のすべての学校で途切れず続くには、見えないところで支える存在が欠かせません。その名も「学校図書館相談員」。直接子どもと接するわけではありませんが、市全体の学校図書館がしっかり息づくように設計し、支える、いわば舞台監督のような役割です。

◇学校図書館相談員という仕事

私が住んでいる市では2人の相談員が図書館に拠点を置き、27校すべてを巡回します。役割は大きく分けて2つ。

1. 相談・支援・活動状況の把握 — 学校を訪問し、司書の悩みや疑問を聞き、助言します。それに加えて、活動状況の確認もおこないます。
2. 専門性の向上 — 研修やスキルアップの機会を通して司書の力を伸ばします。学校司書が「現場の守り手」なら、相談員は「全体の設計者」。それぞれの役割は違いますが、どちらも欠かせません。



◇なぜこの仕事をしようと思ったのか

私は40歳を過ぎてから通信教育で司書資格を取得しました。小学生までは割と本を読んでいたのですが、中高生時代、大学、そして就職してからほとんど本を読まない生活をしていました。しかし、子育てをするなかで、“出会い直し”というのでしょうか、本や図書館のすばらしさに改めて気づかされ、「本を通して子どもの成長を見守れる学校司書の仕事をしたい」と強く思うようになり、“一念発起”したわけです。

資格を取得した翌春から晴れて学校司書としてデビューできたのですが、そこでの5年間はまさに宝物のような時間でした。途中、コロナ禍のため、当初思い描いていたような図書館運営ができず、落ち込んだこともありましたが…。

多くの自治体同様、私が住んでいる市でも学校司書は「会計年度任用職員」での採用で、やがて任期満了の時を迎えました。そして縁あってお声掛けいただき、相談員としての一步を踏み出しました。

相談員の仕事は学校司書としての経験が生かされますし、日々の仕事を通して、もっと大きな単位——市全体で仕組みを良くしたいという思いも芽生えました。現場で感じた「孤独」や「困難」を減らし、同じ志を持つ仲間が力を合わせられる場をつくる。それは、かつての自分に手を差し伸べるような気持ちでもあります。

また、相談員は一校にとどまらず、市全体の課題を俯瞰できます。ある学校で成功した読書イベントを他校に広めたり、共通の問題にガイドラインをつくって対応したり——そうした「波及効果」を生むことに、大きなやりがいがあります。

学校司書のやりがいは、子どもの笑顔や「ありがとう」の声といった、直接の手ごたえにあります。一方で相談員の喜びは、もっと間接的で長い時間をかけて届きます。支えた司書さんたちが、それぞれの学校で何百、何千もの子どもたちに笑顔を生み出している—その事実が、胸の奥に静かな充足感を広げます。

もちろん、課題も少なくありません。27校それぞれの文化やニーズは違い、一つの方法が全校に通用するとは限りません。現場と教育委員会の間で



時には厳しい現実を伝える役も担います。

また、時代と共に、図書館の役割も変化します。ICT活用や情報リテラシー教育、紙とデジタルをつなぐ新しいサービス…相談員自身も学び続ける必要があります。

◇図書館協議会委員への挑戦

今年度から新たに市の図書館協議会委員としての活動も始めました。任期は2年で、活動は年数回の定例会議に出席し、議題に対して議論・意見を述べるものになります。残念ながら、学校図書館相談員は教育委員会への発言権は無いに等しいのが実情です。そこで、学校図書館も含め図書館サービスをより良くするために積極的に意見を述べる役割がある「図書館協議会委員」に応募しました。会議にはまだ数回しか参加していませんが、委員は学校教育の関係者、社会教育の関係者、学識経験のある者、家庭教育の向上に資する活動を行う者で構成されており、多角的な意見が聞けて視野が広がります。「人任せにせずに自分で発信しよう」という姿勢は、広島女学院で育まれたものと思います。

最後になりましたが、灯火親しむべし。この秋、本との素敵な出会いがありますように！

あやめの会に参加して

森田 陽香（高 62）



先般 15 年ぶりに広島女学院を訪れる機会があり、学生時代の懐かしさと共に、女学院というコミュニティの温かさを改めて感じたことがきっかけで、東京支部で活躍されている先輩方のお話をぜひ直接伺いしてみたいと思い、「あやめの会」に参加することにいたしました。

あやめの会は、最年少である私から、80 歳代の先輩まで幅広い年齢層が集まり、総勢 30 名で大いに賑わいました。駒込にある老舗蕎麦店、小松庵総本家で天重とお蕎麦のセットをいただき、その後希望者は六義園の庭園散策に向かいました。ランチではテーブルごとに話に花がさき、終始笑い声が絶えないひとときを過ごしました。

私自身はランチだけで六義園散策には参加できませんでしたが、参加者によると、この日は 6 月にもかかわらず 31 度を超える暑さだったものの、六義園に入ると木陰はとても気持ち良く、都会の中心に在ることを忘れるような緑豊かな庭園だったとのこと。園内では数名ずつのグループに分かれ、それぞれにボランティアガイドさんが同行し、和歌に詠まれた名勝の景観が再現されていることを解説してくださり、コースの終盤では日本固有の可憐なアジサイをたくさん鑑賞したそうです。



女学院ならではの特色を強く感じたことの一つとして、参加者の皆様が、まさに女学院精神をお持ちだということです。皆様の明るくユーモラスなお人柄により、終始、笑い声が絶えず、大変楽しい時間を過ごすことができました。また、昔の女学院の様子をお聞かせいただき、その伝統が今も息づいていることを実感しました。昔から変わらない明るく、自由で、活気に満ちた女学院は、やはり最高の学び舎であったと実感しました。そして諸先輩方には、最年少の私に対し、大変温かくお接しいたき、心より感謝申し上げます。皆様の興味深いお話や、女学院の秘話などを伺うことができ、大変有益な時間となりました。

同じ学び舎で過ごした方々が集う同窓会というコミュニティの素晴らしさ、そしてこのコミュニティの一員であることの喜びを深く感じております。社会の第一線で活躍なさっている諸先輩方の力強いお姿は、私にとって大きな励みとなり、明日からの更なる精進への意欲を掻き立てられました。

この度、感想文を執筆する機会を頂戴し、学生時代の小論文を思い出し、懐かしさを感じるとともに、改めて皆様への感謝を申し上げます。

「2025 夏雲の集い」

楠本史江(大北/高 29・文英 11)

一年に一度、夏のあの暑い日に命を散らした先輩、教職員の方々の慰霊の礼拝は、私にとっても大きな意義のある日となっています。母は東京で育ち、父も三重県出身で被爆の体験談とは無関係な環境で育ちました。その上、両親それぞれに過ごした戦中の出来事は話したがいなかったので、今日のように山田玲子さんから直接被爆体験談を伺えて貴重な時間をいただきました。企画してくださってありがとうございました。



高橋潤牧師の「平和は守るものではなく、小さくとも積み重ねて追い求め、その過程も平和的

にして作り出すもの。平和への確かな希望と意志で話し合っ生み出されるもの」との言葉はとても胸に響きました。いつまでも止まない争いの空の下では、たくさんの人々の安心安全な日常が保たれていない事に心は痛むし、私は解決策を持たないし、と思っていましたが、小さな話し合いの積み重ねは、どこかできっかけを見つけられるかもしれないと思えました。

被爆体験のお話は、淡々と言葉を選んで伝え続けていらっしゃる姿に、国を問わず聞いている人々の心に深く染みこんでいくのだと感じました。広島、長崎が最初で最後の被爆体験であって欲しいと切に願うばかりです。(参加者 50 名)



「広島原爆記念日に被爆証言集を朗読する会」

白井京子(瀧口/高 23・文英 5)

8月3日(日)原爆犠牲者を悼む朗読会(新宿カタログハウス本社にて:参加者 42 名)

第一部は、同窓生の尽力で復刊した寺尾知史さんの「切り絵画文集 原爆 ヒロシマ」の中から迫力ある切り絵の映像を流し、寺尾さんの文章を朗読しました。第二部は、山本學さんにお話と詩の朗読をしていただき、學さんから「また来年も協力するよ」とお言葉をいただきました。



8月6日(水)被爆証言集を読む会(文京シビックセンター会議室にて:参加者 41 名)

広島にゆかりのある7人が、原爆投下当日に入市して土や石などを採取した地質学者の祖父の事や、原爆に至るまでのいきさつ、サーロー節子さんの証言などを朗読しました。被爆80年の今年は、各方面で戦争・被爆に関する催しがありましたが、来年以降も地道に朗読会の活動が続けて参ります。





通信欄、メール、LINE、お葉書より



坂道を登ったこと、今も思い出します。楽しい学校生活でした。
(富山真弓 河野/短大14)

今年で82才になろうとしていますが、毎月一週間位広島へ帰り、中学からの友人と飲んだり食ったりしております。やはり女学院の友が一番です。
(市原茂子 増本/高14)

皆様のご活躍や次々とある行事に目を見張っています。今はコーラス2つと茶道に明け暮れていますが、いつか参加させて頂きたいと思っています。
(佐藤美代 長尾/高23)

なかなか同窓会には出席出来ませんが、92才元気で過ごして居ります。
今年も美しいカードを頂きまして有難うございました。年令は重ねましたが、守られてどうにか元気で過ごしています。
(柏木惇 福富/高3)

母校が末長く繁栄し、在校生、卒業生の皆様のご活躍なさいます事を心から願って居ります。
(齊藤千枝子 増岡/高21)

30年ほど前、娘の学校の保護者会で妙に話の合う方と出会い、話しているうちに女学院の卒業生とわかりました。同じ頃、明大前駅のホームで20才位年上の女性から、もしかして女学院の卒業生では？と問われまし

た。もしかして、ビ・ビ・ビッって本当にあるのかしら？
(新城香代子 高木/高17)

いつも充実した支部ニュースを楽しく拝見させていただいています。現在82才で、週3回自彊術(じきょうじゅつ)を教え、ゴスペル、ウクレレを楽しんでいます。中学から10年間、I love Hiroshima Jogakuin !
(森川道子 西原/高13・大英13)

何時も様々の分野の情報をありがとうございます♪北海道支部の神野純子さんが札幌在住の方をお誘いくださり3人でお訪ね下さる事になりました。久し振りに、女学院の方々とお話し出来ますことを愉しみに致しております♪

素敵なお心が思わず暖かになるカードを頂戴いたしました。心よりお礼申し上げます♪このカードと共に涼やかな秋が訪れてくれた様な気が致します。
(大藪淳子 鈴川/高15)
(北海道在住)

女学院の会合楽しみにしておりますがいつまで行けるかしらと。行けるようがんばりますのでよろしく願い申し上げます。
(野村朋子 三宅/高8)

六義園の散策は木々を抜ける風が心地良かったです。都心で森林浴ができました。
(柏井郁子 古谷/高24)

先日は、小松庵と六義園とても楽しくありがとうございました。
(胡真理子 高33・日文15)

先日、高36期還暦同窓会に出席するため広島に帰省しました。42年ぶりに会う旧友がほとんどでした。
(柳澤伸江 河井/高36)

いつも同窓会東京支部の「お便り」をありがとうございます。東京での活動がすごくよく分かり楽しく拝読させてもらっております。同窓生の方が帰省された時のコメント！イイですね。ホッコリします。岩国は、来年度後期の朝ドラが「宇野千代」をモデルにした物語になるとかで、少しざわついている感じです。
(正木由紀子 白井/高27)
(山口支部)

この度は、かわいいふくろうのカードをありがとうございました。私はふくろうが大好きで、旅先でふくろうの小物を見つけると買っています。お手作りの品と思いますが、ていねいに作られていて感心しました。お心遣いを本当に感謝いたします。
(清水富士子 榎木/高14・大英14)

此の度は素晴らしいお手造りのカードを頂きまして大変嬉しく有難うございました。まだまだ真夏の暑さの中、満月とフクローにすっかり和まされました。
(渡邊芳子 長沢/高16・大英16)



惨状の切り絵 43年ぶり 復刊



43年ぶりに復刊した寺尾知文さんの「原爆 ヒロシマ」(撮影・河田通)



寺尾知文さん(遺族提供)

広島女学院高卒業生の動画 糸口に

画家の寺尾知文さん(2000年に82歳で死去)が自らの被爆体験を描いた切り絵画文集「原爆ヒロシマ」が今夏、43年ぶりに復刊した。絶版になり、出版社も著作権者と連絡を取れなかったが、広島女学院高(広島市中区)の卒業生がYouTubeで発信した朗読動画が糸口となった。(山下美波)



兵庫県出身の寺尾さん 下直後に市内で救護活動は戦時中、鶴尾(広島県)をした。「森羅万策、す坂町」の陸軍船舶司令部 べつものが、えんえん(通称読部) 船舶整備と燃える、にんげんのつ教育隊に所属し、原爆投 くり上げた、生き地獄

……」。画文集は体験記とともに、目の当たりにした惨状を白黒の切り絵72点で表している。戦前は京都で染色業に従事し、戦後は東京を拠点に雑誌や新聞の挿絵を描くとして活躍した。長く被爆体験は胸にしまつていたが、風化を懸念し「いまこそ描かなければ、明日には遅すぎるかもしれない」(前書き)と1982年に光人社から出した。

同社の後身「潮書房光人社」(東京)が被爆80年に合わせ復刊を計

画。編集部員の坂梨誠司さん64は「被爆者一人の姿を丁寧に描いた切り絵に引かれた。節目の年にこの作品を素通りするわけにはいかなかった。著作権者を捜す中で偶然、広島女学院高の関西在住の同窓生でつく「ヒロシマ」を語り継ぐ会」による画文集の朗読動画を見つけた。

「寺尾さんの切り絵の朗読動画を神戸市内で開いたら反響が大きくて朗読作品に仕立てた」と代読の浅海和子さん(71)は神戸市。18年から神戸市内で上演し、新型コロナウイルス禍を機に35分間の動画にした。会や親交があった大学教員が協力し、坂梨さんは著作権者の大宮修さん(71)東京と接触できた。寺尾さんの亡き一人娘の夫である大宮さんは、坂梨さんの熱意に触れ、快諾。自身も遺品整理で見つけた一冊を大切に保管していた。本人から被爆体験を聞いたことはなく「正直、刺激的な内容なので精読できていない。復刊を機にしつくり読みたい」と話す。

感謝のカード

80歳を超えても支部会費を納めてくださっている75名の方々に感謝を込めて、役員の松岡理乃さんの手作りのフクロウのカードをお送りしました



支部活動は皆さまの会費に支えられています
今年度の支部会費(2,000円)の納入をお願いいたします

~~~ 銀行振込もご利用ください! ~~~

**三菱UFJ銀行 高田馬場支店 普通 0473771 広島女学院同窓会東京支部**

東京支部へのご意見、ご感想を振込用紙の通信欄やメールでお寄せください➡ [gaines\\_tokyo@yahoo.co.jp](mailto:gaines_tokyo@yahoo.co.jp)

**東京支部の LINE 公式アカウントへのお友達登録もお願いします➡**



封筒の宛名ラベルに「\*」印が付いている方は今年度の会費を納入済みです



# クリスマス礼拝

12月13日(土)

13時30分～15時30分

日本キリスト教団 銀座教会

東京都中央区銀座 4-2-1

JR 有楽町駅 中央口より徒歩 5 分

東京メトロ銀座駅 C6 または C8 出口よりすぐ

13:00～ 受付、13:25 着席

13:30～ 礼拝・説教 高橋 潤 牧師

14:00～ 懇親会(5 階・ぶどう)

※他支部の方もどうぞご参加ください

※当日、準備・片付け等をお手伝いいただけると  
ありがたいです。

問い合わせ:090-1766-4342 (しげの 滋野)



## 他支部のクリスマス礼拝

★千葉支部 12月1日(月)

新津田沼教会

13時～受付、13:30～15:00

礼拝と歓談

問い合わせ:090-1774-5200(村中)

★神奈川支部 12月5日(金)

藤沢教会

13:30～ 礼拝後、茶話会

問い合わせ:080-5171-9428(徳久)